

高知県透析医会だより

谷村正信

はじめに

前会長である故湯浅健司高知高須病院院長の後を継ぎ、バタバタと雑事をこなしているうちに、高知県透析医会の会長に就任して早や11年目に入りました。前回報告して以降の高知県支部の状況について、5年ぶりに報告させていただきます。

1 支部の概要

現在の会員施設は40施設と、施設数は変わりありません。透析患者数は、2,504名（JSDT 2018年末）と200名弱の増加を見ております。2014年～2016年は2,340名前後であり、高知県におけるCKD対策の効果が出たかと期待しておりましたが、以後は毎年40名程増加しております。

前回の報告後も若い先生の医会へのリクルート、役員への招聘が上手くいっておらず、“医会の若返りを図る”という5年前と同じ命題をいまだに抱えたままであります。

2 活動内容

高知県透析医会（表1）の活動としては、高知県の透析医療技術の向上、透析経営の安定化などはもちろんですが、現在の最重要課題は、南海トラフ大震災対策となっております。

2-1 学術活動

学術活動としては、4年に一度の四国透析療法研究会を主催（第52回研究会は2018年10月28日開催）と毎年2月中旬の日曜日に高知県透析研究会を開催しております。高知県透析研究会は、高知県内より医師・看護師・臨床工学技士含め約300名が一堂に会し、医療技術の向上とともに震災対策の普及・啓発に努めております（表2）。

表1 高知県透析医会役員

| | |
|--------|-----------------------------|
| 会長 | 谷村正信（事務局） |
| 副会長 | 大田和道 入口弘英 伊東秀樹 島津裕和 吉村和修 |
| 災害対策部会 | 谷村正信 入口弘英（災害透析コーディネーター（総括）） |
| 理事 | 北村潔 島津栄一 寺尾尚民 桑原和則 三宅晋 |
| 顧問 | 井上啓史 寺田典生 |

表2 高知県透析研究会講演記録

| 回数 (日時) | 一般 演題 | 特別講演&ランチョンセミナー演題名 | 演者 |
|---------------------|----------|--|--|
| 第42回 (2016/2/21) | 24題 | 透析施設における感染症対策～ガイドライン どこがどうか変わったか～ 透析患者の骨折について | 安藤亮一 (武蔵野赤十字病院) 塚本雄介 (板橋中央総合病院) |
| 第43回 (2017/2/26) | 16題 | オンライン HDF・HHD 最近のトピックス 「災害時人工透析提供体制」の確立 | 政金生人 (矢吹病院) 隈 博政 (くまクリニック) |
| 第44回 (2018/2/25) | 18題 | 透析医療の災害対策 腹膜透析における医療連携：北九州での取り組み | 赤塚東司雄 (赤塚クリニック) 金井英俊 (小倉記念病院) |
| 第45回 (2019/2/24) | 21題 | 透析医療の50年の歴史 糖尿病性腎臓病 (DKD) 治療の現状と今後～保存期から透析期まで～ | 水口 潤 (川島病院) 深水 圭 (久留米大学) |
| 第46回 (2020/2/23) | 14題 | 千葉県における台風災害による透析医療への影響—台風15号を中心に— CKD-MBDの新しい輪郭～エボカルセトのtarget populationを探る | 渋谷泰史 (東葛クリニック病院) 山田俊輔 (九州大学病院) |

(敬称略)

2-2 震災対策

前回の支部だより後も、臨床工学技士会や腎不全看護研究会の災害対策講演会も後援しながら、発災時の自助、共助の在り方などを高知県全域へ啓発して参りました。2015年からは、高知県知事より災害透析コーディネーターが任命されたことを受け、災害透析コーディネーター連絡会を継続して開催しております。この中で、高知県とともに災害対策研修会の開催や2015年には「人工透析患者連絡カード（災害時広域搬送用）」、2016年には「高知県南海トラフ地震時重点継続要医療者支援マニュアル」、2017年には高知県透析患者用災害対応リーフレットの作成も行ってあります（表3）。また、災害時に県福祉保健所内に設置される高知県の災害対策医療支部（2019年よりは災害保健医療調整支部）との整合性を考慮し、高知県を5ブロックに分け、ブロック毎に災害透析医療コーディネーターを2～3名設置しております（図1）。

表3 高知県災害透析研修会

| 年度 | 特別講演, 訓練 | 演者, 特記事項 |
|-------|---|---|
| 2015年 | ① 講話「高知県の災害時の透析支援について」 ② 特別講演「東日本大震災における岩手県の対応～震災時の対応と震災後の対策について～」 | 高知県健康政策部健康対策課 課長補佐 中島信恵 岩手医科大学泌尿器科学講座 准教授 大森聡先生 |
| 2016年 | ① 特別講演「経験に学ぶ地域の透析医療災害対策」 ② 災害訓練（情報伝達訓練） | 日本透析医会常任理事・災害時透析医療対策委員会委員長 特定医療法人仁真会理事長（白鷺病院） 山川智之先生 机上型シミュレーション訓練 |
| 2017年 | ① 特別講演「JHATの活動と南海トラフ巨大地震への模索」 ② 災害訓練（情報伝達訓練） | 日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）本部署務局長 神奈川工科大学 工学部臨床工学科教授 山家敏彦先生 机上型シミュレーション訓練 |
| 2018年 | ① 特別講演「熊本地震を振り返って」 ② 平成30年8月4日実施 大規模地震時医療活動訓練反省会 | 宇土中央クリニック院長 久木山厚子先生 (内閣府主催) |
| 2019年 | ① 令和元年度高知県震災対策訓練 ② 令和元年度災害透析情報伝達訓練 | 保健医療調整本部内での災害透析コーディネーター（総括）の訓練（図上訓練） 災害透析コーディネーター（総括）と災害透析コーディネーターとの伝達訓練（LINE使用） |

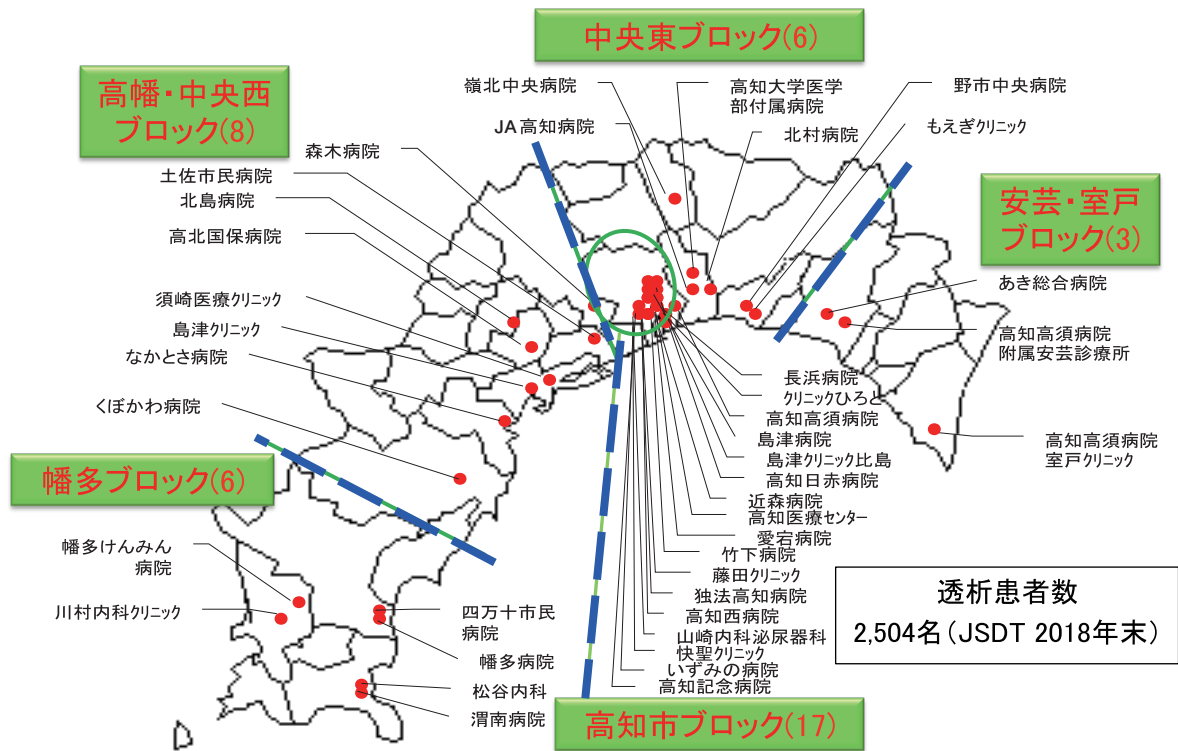


図1 災害時のブロック分けと透析施設

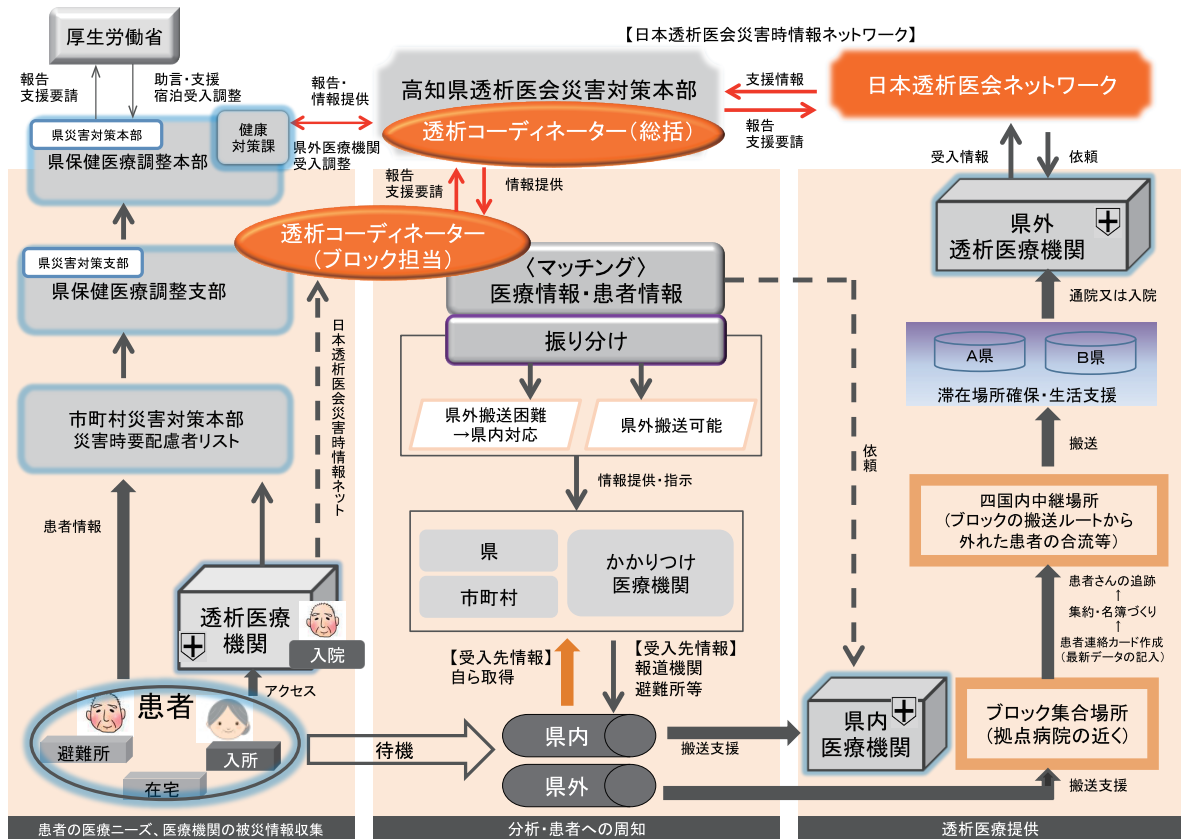


図2 南海トラフ大震災時人工透析患者の流れ

これまでは、災害対策、連絡網構築、日本透析医会への支援要請などについて、日本透析医会災害時情報ネットワークを利用し、高知県透析医会単独で行動しておりました。しかし、2015年に高知県災害時医療救護計画が改訂され、発災時には高知県災害医療対策本部（2019年よりは災害保健医療調整本部）が設営されると、本部内に災害透析コーディネーター（総括）が招集されることになりました。災害医療対策本部内での図上訓練などを経て、現実的に本部内での情報不足を痛感したため、高知県では、透析医会会員施設は、全てEMIS登録が可能になるようにいたしました。もちろん強制ではありませんが、透析クリニックを含め、すべての施設に登録施設になるように指導しています。日本透析医会災害時情報ネットワークとともにEMIS情報など複数の情報網を使用し、災害透析コーディネーターは活動することとなり、また保健医療調整本部・支部と透析医会災害対策本部・支部（災害透析コーディネーター）が並列に位置づけられ、透析施設・患者の声が災害対策本部に届きやすくなり、行政・警察・消防などの支援を、より早く受けることができるようになって参りました。南海大震災発生時には自助・共助・公助をと、①患者さんは自分の命は自分で守り、避難所に向かい、透析患者と申し出ること、②透析施設は、入院患者・職員の安全確保ができたなら透析可能か確認し情報発信すること、③市町村は避難所での患者把握、透析可能施設への搬送、④高知県は、患者情報把握、透析可能施設への物資の支援、県外搬送時には搬送手配・宿泊手配、⑤透析コーディネーターは県内での透析患者の割り振り、県外搬送時には県外搬送先とのマッチング、というように役割分担を図るようになっております（図2）。

おわりに

毎年のように大雨による水害・台風など自然災害も全国で起こっておりますが、もし仮に南海大震災が、想定される最大の規模で発災した場合は、四国4県では対応しきれず、全国の先生方にお世話になると思います。その節は何卒宜しくお願いいたします。

「利益相反自己申告：申告すべきものなし」